昭和大学歯科病院だより 2022. 10月号

通算209号
2022.10.15 発行

昭和大学
SHOWA University

―昭和大学歯科病院の理念―

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者　病 院 長　馬場 一美
編集責任者　広報委員長　長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2－1－1
TEL 03-3787-1151（代表）
ホームページ：https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html

口腔がん治療と新型コロナウイルス

口腔腫瘍外科　診療科長・教授　嶋根 俊和

ワクチンの接種、感染症対策も浸透し、新型コロナウイルス感染症が少しずつ落ち着きはじめて来ています。このまま収束に向かえばよいと思っていますが、今後もこれまでやってきた対策をある程度続けていかないとまた次の波が来てしまうのかとも思っています。

最近、当科で診療している口腔がんの患者さんが、手術前のPCR検査で陽性となり手術延期となることが続いています。患者さんも感染症の症状があまりないことや、がんであるため早く手術をしてほしいと希望されます。

もちろん我々医療者側も少しでも小さいうちに手術をしたい気持ちがあります。最短で2週間程度延期し手術を行っていますが、やはり2週間前より腫瘍が大きくなっていることを実感します。増大速度が早い場合には、再建を要する手術を行う必要が生じたり、感染症が長引いた場合には、化学療法が行えないことも起こりえます。

この場合、術後のQOLが下がる可能性や、治療強度を下げるため生命にかかわる場合も出てきてしまうかもしれません。手術前には「手術が延期になる可能性があるので、くれぐれもコロナだけは注意してください」とお話をしていますが、患者さんもどこで感染したかわからないことも多く、難しい問題だと考えています。

これにはまず新型コロナウイルス感染症が収束することが第一ですが、ワクチン接種で重症化しないことが大事になってくると思われます。入院においても現在は個室管理を行っていますが、もっと簡便になることを願っております。口腔内の病気であるため今後も適切な感染対策を行いながら診療してまいります。

P1　巻頭言　口腔がん治療と新型コロナウイルス
P2　診療科紹介　口腔腫瘍外科
P3　診療科紹介　障がい者歯科
P4　部署紹介　臨床検査室
編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。
患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：口腔腫瘍外科

口腔腫瘍外科　講師　齊藤 芳郎

私たち口腔腫瘍外科は、主に口腔内に発症した腫瘍を治療する診療科になります。口腔内に発症する腫瘍には良性腫瘍から悪性腫瘍（がん）まで、さまざまなものが存在します。特に口腔がんは放置することで命にかかわりますので、早期に適切な治療を行うことが重要となります。当科では手術治療、化学療法及び放射線治療を組み合わせ、患者さんの治療に当たっています。

口腔がんにおいて手術治療は最も基本的な治療となります。早期がん（小さながん）であればほとんどの場合が、大きな後遺症なく切除（がんを切り取る）することが可能です。しかし、進行がん（大きくなってしまったがん）では切除をすることで、「食べる」や「しゃべる」などの生活に必要な機能が著しく低下してしまいます。

当科ではこのような進行がんに対しては昭和大学病院の頭頸部腫瘍センターに場所を移し積極的に口腔再建手術（がんの切除で失われた部位への移植手術）を行なっています。しかし、口腔再建手術を行なっても術後の障害を完全に回復させることができないのが現状です。口腔がんは早期発見・早期治療が最善ですので、口腔内の異常を感じたら迷わず受診をしてください。

適応となる症例には放射線療法や化学療法も行なっています。放射線療法は治療後の副作用に口腔乾燥や皮膚・口腔粘膜炎（やけど）が挙げられますが、最近では機器精度の向上もあり、副作用の改善が認められています。また化学療法に用いる薬は近年急激に種類が増加しています。以前から使用されている抗がん剤に加え、分子標的薬（特定分子にのみ作用する薬）や免疫チェックポイント阻害薬（がん細胞に対する免疫を持続活性する薬）などが用いられるようになってきており、当科でも積極的に用いて治療に当たっています。

【コロナなので病院に行くのをためらってしまいました。】と言う言葉を患者さんから聞くことがあります。未だにCovid-19が終息する気配がなく、不安を抱きながら皆様生活をされていると思います。ただ口腔がんは命に関わる病気です。不安なことがあれば是非受診をしていただければと思います。スタッフ一同、感染対策を十分に行い治療にあたらせていただきます。

写真１　頭頸部腫瘍センター

３年ぶりに行われた現地での学会写真

診療科紹介　障がい者歯科

障がい者歯科　助教・診療科長補佐　嘉手納 未季

障がい者歯科は、歯科診療に対し特別な配慮が必要な方々の歯・口の総合的な診療科になります。知的障害、自閉スペクトラム症、脳性麻痺、染色体異常、四肢体幹障害、統合失調症、筋ジストロフィー、脳血管障害、認知症など、さまざまな障害や疾患のある方を対象に診療を行っています。

障害のある方にとって、お口に関連したさまざまな問題は解決することが容易ではないことが多いかと存じますが、是非当科までご相談ください。

【外来診療】

当科には0歳の赤ちゃんから90歳のご高齢の方まで幅広い年齢層の方が来院されています。車いすを使用されている方や、歩行が困難な方でも来院しやすい1階にあり、障がい者専用ユニット4台で診療しています。診療ユニットのうち1台は個室となっており、音に過敏のある場合などにも配慮のできる体制を整えております。

主な診療内容は、お口のクリーニング、歯石除去、むし歯の治療、被せ物や義歯の補綴治療、抜歯などの外科治療で、必要に応じて院内の各専門診療科と連携し対応しています。

恐怖心や緊張が強い方には個人の特性に配慮しさまざまな行動療法を用いたり、歯科麻酔科と連携して静脈内鎮静法や静脈麻酔法にて歯科治療を行うなど、患者さんの安全を第一に、歯科治療による不安やストレスを最小限にすることを常に心がけています。

【全身麻酔下歯科治療】

治療歯数や治療時間、治療内容、精神的な影響などに応じて全身麻酔による集中治療を行っています。環境変化などを考慮し、入院日数を減らすよう治療当日朝に入院していただき、夕方には帰宅できるように対応しています。

【予防プログラム】

それぞれのお体の状態やお口の状態に合わせた予防プログラムを提供しています。プロフェッショナルクリーニングと、患者さん自身の自立支援を含めたご本人への口腔清掃指導および予防処置を行い、口腔の健康維持管理に努めています。

予防プログラム
口腔清掃指導の際に使用している絵カードです。ご家庭でも使用できるよう、ご希望の方にお配りしています。

歯科診療を受けること自体が難しくお困りの方がいらっしゃいましたら、スタッフ一同、誠心誠意、対応させていただきますので、どうぞお気軽に障がい者歯科を訪ねていただければと存じます。

障がい者歯科　スタッフ

部署紹介　臨床検査室

臨床検査室　臨床検査技師　手塚 美紀

当臨床検査室は、臨床検査技師2名で業務を担当しています。

守備範囲は多岐にわたり、採血や血液・尿検査、循環器領域検査（心電図・24時間心電図・血圧脈波）、呼吸器領域検査（肺活量）などを行っています。また、血液・体液暴露時の迅速検査も行っています。

採血採尿での来室が一番多く、採取した血液や尿は至急で検査するほかに院外の専門施設で精密検査を行っています。専門施設での検査は結果が出るまでに少し時間がかかりますが、何百種類もの項目を検査でき、臨床側へ豊富な情報を提供しています。また採血後に処理を行い、検査結果の報告時間の短縮に努めています。

当院は地域の歯科医院からの紹介で、基礎疾患があり一般の歯科医院では治療が困難な患者さんが多く受診されます。治療を安全に行うための病状把握や全身麻酔で行う処置や手術のための健康状態確認が必要になります。

臨床検査室は安心して治療が受けられるよう診療のサポートを行っています。

採血が初めての方、過去の採血でめまい、気分不快感などを経験したことのある方などご心配な方は、ベッドで横になりながら採血することが可能ですのでお申し出ください。

またお子さんが訪れることも多く、興味をひくような愛らしい動物の掲示物などで怖い印象を持たれないようにしています。

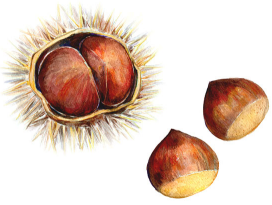
検査についてわからないことがありましたら、お気軽にお声をかけて下さい。

臨床検査室の入口

採血台

臨床検査室　スタッフ

編　集　後　記

このところ朝夕と冷え込むことも多くなり、日増しに秋の深まりを感じるようになりました。この時期はレジャーなどで遠出されたりする機会もあるかとは思いますが、お怪我や体調不良でせっかくの楽しみが台無しになってしまわないよう気を付けつつ秋を満喫しましょう。

（S.T）